



『牛鍬 (うしぐわ)』や『馬鍬 (まぐわ)』を使って、荒起こしや代掻き、畦付け作業など、昔ながらの田植えが再現されました。

田んぼをならす鍬代 (くわじろ) を終えると鮮やかな衣装に身を包んだ早乙女が入り、田植え綱に沿って、1束づつ丁寧に苗を植えていきました。

境内を田んぼにみたく「獅子練り」で場を清めた後、牛や馬にふんした子どもが牛鍬・馬鍬を引っ張り、あつという間に境内をかけぬける「荒起こし」「代掻き」、たばこを吸ったり居眠りを

にも指定されているお田植祭は平安時代末期から始まりました。

境内を田んぼにみたく

「獅子練り」で場を清めた

後、牛や馬にふんした子ども

が牛鍬・馬鍬を引っ張り、

あつという間に境内をかけ

ぬける「荒起こし」「代掻き」、

たばこを吸ったり居眠りを

「昔ながらの田植え再現」 「お田植祭」

5月5日(日)、富地域の布施神社で、昔ながらの田植え再現が行われました。当日は晴天に恵まれ、大勢の見物客で賑わいました。「昔ながらの田植え再現」に続き、五穀豊穡を祈る神事「お田植祭」が行われました。

県の重要無形民族文化財

しながらのどかな農作業の様子を再現する「くわじろ」や、歌と太鼓の音にあわせて次々と櫛(さかき)の葉をまいていく「田植え」などが披露されました。1番の盛り上がりは今年の豊作を占う「殿様と福太郎」のかけあいです。

殿様と福太郎の滑稽なや

りとりに会場の観客からは、大きな笑いと拍手が上がっていました。

殿様が笑ってしまうとそ

の年は不作になると言われ

ていますが、今年も殿様は

笑うことなく、豊作への期

待が広がりました。

